



**獨協医科大学精神神経医学教室
同門会誌**



**第2号
2010**

目 次

1. 同門会総会に参加を！	黒田 仁一	1
2. 宮坂賞について		1
3. 下野の国に来て早や7年		
～富士山の見えるオフィスから～	下田 和孝	3
4. 同門会会員よりの寄稿		4
医療法人 和泉会いずみ病院	高江洲義英	
医療法人 清水桜が丘病院	清水 輝彦	
磐田原病院	辛島 敬士	
医療法人原会 原病院	原 淳子	
5. 大高 忠先生 追悼文	堀 彰	8
6. 研究室便り		
統合失調症研究グループ	尾関 祐二	9
7. 教室便り		10
人事往来		
現在の教室スタッフ		
新入医局員 挨拶		
8. 新潟大学精神科ゴルフ部との対抗戦レポート	下田 和孝	12
9. 第19回日本臨床精神神経薬理学会・学会奨励賞を受賞して	佐伯 吉規	13
10. 平成21年度獨協医科大学精神神経医学教室同門会総会議事録		14
11. 写真で見る講座・大学の動きおよび学会出張記		15
12. 2008～2009年の講座業績	下田 和孝	20
13. 編集後記		29

表紙写真 日光カンツリークラブ1番ホールより中禅寺湖方面に男体山を望む
(撮影：下田和孝 使用機器 Olympus E-400)

同門会総会に参加を！

栃木県立岡本台病院
獨協医科大学精神神経科 同門会会長
黒田 仁 一

会員の皆様お元気ですか。現医局員の皆さんのご尽力により、同門会誌の2号目が発刊されることになりました。獨協医大精神神経医学講座も、下田教授のもと陣容も整い、研究活動なども充実してきているとのこと。若手の臨床、研究活動の励みになればと昨年宮坂賞も復活しました。今年は臨床部門で石川高明君、研究部門で岡安寛明君がそれぞれ受賞し、忘年会のなかで表彰式が行われました。また昨年総会の際に、講師の先生をお招きして講演していただくことも始めました。2008年は小田 晋先生に来ていただき、小田先生と宮坂先生とのかかわりを中心に獨協時代の思い出を語っていただきました。独特の辛口ユーモアをまじえて、しみじみと心に沁みのお話でした。健康に留意されて今後も活躍されることを願っております。2009年は一瀬邦弘先生をお招きしました。精神科救急医療など第一線の精神科医療に長年携わってこられた一瀬先生ならではの視点から、現在問題だと思っておられる三つのテーマについてお話しいただきました。その三つとは、覚せい剤精神病など薬物性精神病への対応、及び最近混乱が生じている統合失調症とうつ病の診断の問題でした。大変勉強になると同時に先生の熱い語り口に圧倒されました。このような講演はできるだけ多くの会員に聴いてもらえたらと思うのですが、出席者が少ないのです。毎回委任状を含めてぎりぎり総会成立という有様です。今後総会を魅力あるものにし、また会員の皆さんがより参加しやすいものになるように次のようなことを考えています。ひとつは現在教室でどのような臨床、研究活動が行われているか知ってもらうため、宮坂賞受賞者に対象となった活動について報告してもらう。もう一つはアンケートの配布です。総会のあり方や同門会に対するご意見をお寄せいただければ幸いです。

皆様お忙しいとは思いますが御協力のほどよろしく願いいたします。

宮坂賞について

同 上

諸般の事情でしばらく休止しておりましたが、昨年より宮坂賞が復活いたしました。若い会員の方のなかには賞の由来についてご存じない方もいらっしゃると思いますので、説明しておきたいと思います。

宮坂賞は、正式には「宮坂学術奨励賞」といい、平成10年、初代教授の宮坂松衛先生が亡くなられたとき、奥様より300万円が基金として寄付されたのが始まりです。当初は若手医局員または研究生が第一著者となった論文に対して贈られ、選考は2年に一回でした。平成11年、13年と二回授賞式がおこなわれましたが、その後いろいろな事情で休止状態となっていました。教室の状態も落ち着いた昨年より復活させることにしました。対象となるのは若手の医局員で、その年に臨床や研究において優れた成果をあげた者です。臨床活動と研究活動から一名ずつ毎年選考することにいたしました。表彰状と副賞として賞金15万円が贈られます。表彰式は教室の忘年会の

中で行われます。今までは表彰式のみでしたが、若い医局員たちがどんな活動をしているのか知りたいという意見が同門会の総会で出され、今後は総会の中で受賞対象となった活動について発表してもらうことも考えています。選考のしかたは、教室から対象者を推薦してもらい、選考委員会が承認するという形で行っています。ちなみに選考委員は次の5名です。

平田幸一（獨協医科大学神経内科教授）

秋山一文（同 精神生物学講座教授）

下田和孝（同 精神神経科教授）

朝日公彦（朝日病院院長）

黒田仁一（栃木県立岡本台病院副院長）

今後この賞が若い人たちの励みとなり、教室の臨床、研究活動がさらに充実したものになればと思います。ちなみに今までに受賞されたのは次の方々です。

第一回、平成11年：中村俊規

第三回、平成20年：佐伯吉規（臨床部門）

朝日公彦

上田幹人（研究部門）

第二回、平成13年：辛島敬士

第四回、平成21年：岡安寛明（臨床部門）

石川高明（研究部門）



2008年度宮坂賞（研究部門） 上田幹人先生

2008年度宮坂賞（臨床部門） 佐伯吉規先生

（残念ながら佐伯先生の写真がありません）



2009年度宮坂賞（研究部門） 岡安寛明先生

2009年度宮坂賞（臨床部門） 石川高明先生



下野の国に来て早や7年 ～富士山の見えるオフィスから～

獨協医科大学精神神経医学講座・主任教授
下田和孝

2003年1月に獨協医科大学に赴任して以来、早や7年が過ぎた。前号でも述べたように小生は神戸で生まれ、岡山で育ち、滋賀で学んだ根っからのthe guy from western part of Japanである。そのせいか、私が納豆を食べていると「ええっ?? 下田先生って、納豆、食べるんですか?」と多くの人が非常に驚くのである。

「globalization、borderlessの世の中やで、何やそれ・・・」「昔から関西でも納豆は食べる人間はおるわ」「関西でもスーパーはもちろん、大学の学食でさえ売ってるやんか」「家には納豆のねばねばが盛大に生成できる納豆かき混ぜ専用器具まであるのに・・・」とため息をついてしまうのである。

「関西人は納豆を食べない」というstereotypeな認識が下野の国に蔓延していることには辟易とする。しかし、それも無理からぬことではある。東と西で食べ物の嗜好、味、認識が全く違う。代表的なものとして、うどんのおつゆ、おでんの具、もちの形などであるが、当地では「肉じゃが」の「肉」が「豚」であるのはかなり驚いた。当地の名物、餃子も関西のそれとはずいぶん違う（小生の愚息は「餃子はやっぱり王将や」と言う）。やはり、「食べ物は文化」であるし、食べ物に対する感覚、とらえ方が西と東ではずいぶん違うように思う。

では、西の人間、東の人々でも共通の感覚を惹起するものは何であろう。2009年1月2日、小生は獨協医科大学臨床医学棟8階のオフィスにいた。小生だって、正月くらい家でゆっくりしたい。しか～し、昨今は論文の投稿などすべてinternetでやりとりするスピード勝負の時代である。S先生の博士論文となる予定の論文の訂正を3週間以内に完了せねばならず、研究グループのU先生までデータ再解析のために大学にいたのである。我々の業界にnew year holidaysなど無いのである。

頭をsqueezeして、脳がおからのようになり、ふっと、窓のほうに目をやった時・・・、「ななな、なんだ、あれは・・・?」と思って目が釘付けとなった。日本人ならあの形をみて、ひとつの言葉しか絶対思い浮かばない、「富士山」である。「富士山やあ～、富士山がみえとるでえ～」と叫びながら医局にすっ飛んで行き、U先生、当直医、何故か正月なのに医局にいた秘書のHさんまで呼んできて「な? な?、あれって、富士山やな?」と確認する興奮ぶりであった。山頂付近の山ひだまではっきり見えていた（写真参照）。西の人間は普段、東海道新幹線から以外は富士山をみる機会などないので、相当なエキサイトぶりであった。そのようなものを見せてくれるきっかけを作ってくれたEuropean Journal of Clinical Pharmacologyのchief editorに感謝の気持ちさえ湧いてきた。

あの唯一無二の神々しいプロポーションは、なんだか日本人の背筋を伸ばし、元気にさせてくれるものがある。西の人間、東の人々に共通の感覚・感情を惹起するものの代表格であろう。富士山が我々の頭をrefreshしてくれたおかげか、論文は無事受理・掲載され、日本臨床精神神経薬理学会奨励賞を受賞したことを付け加えたい。

参考：富士山可視マップ <http://www.geocities.jp/fyamap/fujisankashimap.htm>



獨協医科大学臨床医学棟8階から佐野・小山方面に富士山を望む（2009年1月2日 撮影：下田和孝 使用機器 Olympus E-400）

獨協医科大学の思い出と現在

医療法人 和泉会いずみ病院 理事長
高江洲 義 英

私が東京医科歯科大学を卒業したのは1971年（昭和46年）である。1965年に医科歯科大に入学し、千葉県市川市の教養学部に通い出したのも東の間、大学はその年から、いわゆる「大学紛争」のストライキを繰り返し、1970年の「日米安保条約継続」まで1965～1970年の長い「安保闘争」の時代であった。

1960年前後の「第一次安保」は「樺 みち子」さんの死が象徴する「悲しい歴史」であるが、1970年にむけての「第二次安保闘争」は、さらに拡散した「大学闘争」の規模から「連合赤軍事件」など、悲しい歴史を歩むことになった。

そして、その後の静穏化の時期に獨協医大精神科開設へと続いていく。初代、宮坂松衛教授、小田 晋助教授、大森健一、大高 忠講師、中野隆史、東本 務、佐藤親次助手という錚錚たるメンバーであった。その後、森克巳、入江茂、高良聖らの優秀なスタッフ、そして黒田仁一、斎藤治ら、優秀な一期生が続いた。宮坂教授の専門は「てんかん」であったため、「難治性てんかん」の入院治療を徹夜で当直することが少なくなく、勉強にはなったが、きわめて苛酷な労働でもあり、あの時の臨床体験が今日の私の臨床家としての対応を形作ったともいえる。精神病理の領域でも、サリヴァンの原著の輪読会や、その他の抄読会、学会の参加や開催、さらにドイツから講演のため来校したルーバン・プロッツァ教授の原稿を徹夜で翻訳を行うなど、多くのエピソードが浮かぶ。

さらに「学生相談室」の「校医」としての学生との諸相談、あるいは合唱部の発足にあたって、指揮、顧問として合宿に参加し、当時もちこんだプログラムの一つ「ジェリコの戦い」（黒人霊歌）が今日まで歌い継がれていることも懐かしい思い出となっている。大学祭の諸行事も活発で、クイズコーナーに参加したり、応援歌の募集があり、徹夜で作曲して応募したが、こちらは落選してしまって残念な思いをした。

その後、父の急病のため1981年には郷里に帰らざるを得なくなり、以後、父、そして、母のりハビリを担いつつ、1985年にいずみ病院を設立して今日に至っている。獨協OBの応援もいただきつつ、今後とも地域医療と芸術療法、民俗精神医学などの研究や、関連諸学会活動にも参加していきたい。

北の大地から

医療法人 清水桜が丘病院 院長
清水輝彦

平成13年3月末日、皆さんに送られて愛車とともに北上、目指すは仙台港でした。数時間で無事到着しフェリーへ、翌朝苫小牧港で下船し一路釧路へ、とはいっても本来の旅好きが出て浦河町～襟裳岬を回って、実は初めてでした。夕方、釧路に到着した時の感慨深さは今も鮮明に覚えています。あれからまもなく9年、その間にも色々なことがありました。実家の病院で名ばかりの医長として仕事をはじめ翌年副院長に、しかし大変さが増えただけとっては言いすぎですが、単に臨床をやっているだけでいいだけとは違ううえに正直びっくりすることも多々ありました。

現在は院長として診療はもちろんですが病院経営全般についても判断や決断を求められる日常です。最初の何年かは栃木で一緒に仕事をした先生方と情報交換をしながら自分なりのやり方を模索していました。ところがあまりにも状況が違いすぎ、自分なりの工夫をしないとやっていけないことが多くなってきました。栃木なら大学医局に相談したり、あるいは個人的な関係で非常勤医を確保することも可能ですが、この地ではそういうわけにもいかずパート医も週末中心に東京から何とか、が実情。平日は常勤2名で外来と入院に対応、加えて外の仕事も多いものの誰かに頼むわけにもいかず、看護学校での講義や根室まで片道120kmかけてのメンタルヘルスの仕事もあります。以前はJRに乗り移りゆく季節の車窓を楽しんだ時期もありましたが、今はスピード違反の取締りに注意を払いながら車での移動、鹿と衝突したものの幸い怪我もなくすんだこともあります。かつて都立松沢病院へ3年ほど勤務させていただいた時に1年間精神科救急病棟に勤務したことが原点にあるのでしょうか、今でも精神科救急の現場が好きで、ご縁もあって未だに東京での業務をさせて頂いていますがこれはひと休みの予定。今年は足元を固め、より充実した病院を目指して頑張ろうと思っています。

当地も認知症や気分障害圏、神経症～人格障害圏の増加、統合失調症の軽症化と入院の減少が見られる一方で、長期入院患者の高齢化など共通の問題を抱えています。また、冬はマイナス20℃にもなり街全体が凍てつき外出もままならない中での生活の維持や精神科デイケアを含めた外来通院の利便性など、独特な問題もありますがいつも前向きな気持ちと、焦らずにとの気持ちを持って精進しようと思っています。

気分転換は音楽、最近ではヴァイオリンに加えてヴィオラを演奏させていただく機会が多く、音楽仲間とのアンサンブルを楽しんだりしています。また、栃木もそうでしたがこの辺も温泉の宝庫、市内を含め天然温泉が多く、日帰り入浴ならぬ帰宅時入浴を楽しんでもいます。

本来なら「医局と私」とか「あの頃の医局の思い出」といった内容の原稿のほうがいいのかもかもしれませんが、ご無沙汰している皆様方に近況報告を、と思いこのような一文となった次第です。

獨協医科大学精神医学教室への思い出

磐田原病院
辛 島 敬 士

精神科医の子弟である私の使命は、国家試験の合格後に精神科へ入局し精神科医となることであつた。しかし、初代教授の宮坂松衛先生が「頭の悪い奴は精神科には要らぬ！と言っているぞ」と、当時は真しやかに医学部内で語り継がれており、国家試験どころか卒業も俣らぬ自分が入局させてもらえるのか不安であつた。運良く国家試験に合格し恐る恐る入局を御願ひしたところ、あっさりと受諾してもらい拍子抜け、さらには身体のサイズを聞かれ、白衣のサイズかと思いきや野球のユニフォームであると言われ、さらに拍子抜けした記憶がある。

さて、“教室への思い出とは”と回らぬ頭で考えてみると、“自分が存在していること”という答えが出る。父親が経営する単科精神病院で勤務しているが、いずれ運営（存続）を任せられる身でもあり、医師を派遣してくださる大学医局に対しての当院の存在意義を考えた時に、おこがましいが「教育」という言葉が浮かんだ。静岡に戻って7年間、非力ながらも若手の先生の臨床教育や指定医レポートの御手伝いを続け、当院より5名の指定医が誕生し、旅立って行った。遅まきながら人を育てることの難しさを知り、“辛島なんぞは物にならぬ”と感じながらも教育して下さった諸先輩方の御苦勞を実感し、今の自分が在るのは獨協医大精神科教室の寛容さであつたと折に触れ感謝する日々である。

話は変わるが、最近の精神科医は臨床よりも執筆活動（診断書等の作成である）が大多数の時間を占めているように感じられる。診断書にはICD-10などの操作的診断基準を明記するのだが、自分が指導した新人の先生方は臨床においても横断的診断が中心で、縦断的考えは不得手なようである。自己解釈かもしれないが、横断面だけでは本質を見落とすことがある事を教えて下さったのは、宮坂松衛先生のとあるお言葉であつた。

回診中に「その患者さんの生まれたときから死ぬまでを考えなさい」と指導を受けたのだが、今考えると、何と奥深いことか。実際に患者本人だけではなく、家族を含む取り巻く全ての環境や要因を考え、先を予想しながら治療することで、診断の間違ひや薬物療法に依存した治療を避けられるケースが多々あるのは事実である。直接指導して下さった朝日公彦先生などは「何をほざいている」と言いかねないが、学位のための嫌々ながらの検査や結果からの考察、論文もどきを書くことで、論理的な考えも身についたと思っている。

最後に、ろくすっぽ勉強もせず三歳児の如く「何故？如何して？如何すれば？」と質問攻めにし、困った顔をしながらも深夜まで丁寧な答えてくれた諸先輩方、酒を飲み自由に語らう中で学んだ精神科教室時代が懐かしく、右も左も分らぬ自分にとっては大変有りがたいことであつた。時代は変われどもそのような気風が変わることなく、今後の教室の益々の御発展を静岡の田舎から願っております。

させられ体験から・・・

医療法人原会 原病院 院長
原 淳 子

平成21年12月忘年会。群馬から息を切らせて参加した会場で下田教授よりの同門会誌第二号の原稿依頼に、どうしたものか迷いました。医局在籍中は本当に不遜な者でしたから。当時宮坂教授、大森助教授、大高助教授、中野講師、東本講師、仲谷講師、医局先生方に大変なご迷惑をおかけし放題でした。

群馬大学神経内科専攻生から確固たる気概もなく「させられ体験」のように獨協医大精神神経科医局に入局したときは精神病急性期のような状態でした。タバコの煙に冷えた瓶ビールと野球、合間(?)の医局勉強会「うつ病の認知行動療法」(あの時真面目に勉強しておけば・・・)。ゴルフとスキー、脳波室での当直。医局始まって以来の女医助手として産休をとらせていただき、多忙真っ只中の金森先生や医局先生がたには大変ご迷惑をおかけしました。最近では女子医学生、女性研修医、女性医師などサポートする会をよく目にしますが、当時限られた医局員の中に女性がいることはかなりの負担を他医局員におかけすることでした。研修医だった辛島先生たちに当直業務をお願いし患者診療についても随分と助けていただきました。大学医局に在籍しながら研究は全くしていませんでしたし、研修医の先生方に診療の手伝いをお願いしており、教育指導などもってのほかでした。この場をお借りして陳謝と感謝を申し上げます。

あれから15年。随分と時代は変わりました。民間精神科病院の院長となりその変遷に思いをめぐらせます。いま受け入れている研修医の4割は女性医師です。当然妊娠出産を控えた方もおりシングルマザーもいます。男女共同参画社会、「子育ては社会で」と医局先生が他皆さんの寛容な援助なくしてはありえなかった女性医師のサポート体制問題にやっと具体的な対策がなされつつあるようです。それでも実態は厳しく、自らの子が患児であっても他患者の診療を担わなくてはならない状況はあまり変わりませんが。

また、急性期患者の治療にどれだけ大量の向精神薬を投与したか武勇伝のように語られていた時代は非定型向精神薬登場で本当に患者本位の治療へと変わりました。収容施設と言われてきた民間精神病院は精神科病院となりました。タバコの煙と酒瓶の並ぶ医局で寝食をともにしながら臨床研鑽した新米医師は新臨床研修医制度で大学離れし、医療の崩壊どころか医学の崩壊などと言われるようにもなりました。

黙想すると紆余曲折、はるかな長い道のりを来た気がします。しかし確かなことは獨協精神科医局で経験してきた全てが私の支えとなり、精神科医としてばかりでなく人生の基本信念となっていることです。それをもって精神科医療の例えほんの一端でも担い貢献していきたいと決意を新たにしています。

私たち同門会員の心の礎となっている獨協医大精神神経科医局関係皆様のますますの御健勝をお祈りします。



大高 忠先生 追悼文

栃木県立岡本台病院

堀 彰

大高先生は平成22年2月17日に大腸癌のため急逝されました。最初はその知らせに驚き、告別式に参加し現実であることを実感しました。私は大高先生の後に岡本台病院の運営に関わっている者として、先生が新しい岡本台病院を創りあげたことに敬意を表し追悼文を書かせていただきます。

大高先生は昭和49年7月、獨協医科大学講師として着任され、平成3年2月に同大学助教授になられました。そして、平成3年3月に栃木県立岡本台病院に医務局長として着任されました。当時は、宇都宮病院事件の反省の上に、昭和61年の地方精神衛生審議会の答申に基づき病院の全面改築が行われ、平成元年から岡本台病院の新病棟で医療が開始されていました。アルコール専門医療、精神科救急医療、デイケア活動、社会復帰活動という課題は提示されていましたが、医療内容についてはまだまだ不十分な状況でした。そのような中で、先生は平成4年4月から平成14年3月まで院長として活躍され多くの成果をあげられました。特に精神科救急医療に関しては、平成元年から休日・夜間の緊急措置入院の受入れが開始されていましたが、先生は平成4年にMRIを導入し応急入院を開始し、平成6年から日中の措置入院も受入れ三次救急を整備しました。平成11年から精神科救急医療検討委員会を設置し病棟改修を行い、平成12年から一次から三次までの精神科救急医療を開始しました。現在の精神科救急、アルコール専門医療などを特徴とする新しい岡本台病院の医療は、先生が大きな努力をして創りあげてきたものです。

大高先生は平成14年4月から平成16年3月まで岡本台病院顧問として活躍され、岡本台病院を去られました。その後、岡本台病院は平成17年から心神喪失者等医療観察法による指定通院医療、鑑定入院医療を開始し、平成24年度には指定入院医療の専門病棟を開棟する計画となっています。このように新しい岡本台病院が更に発展しようとする時期に、先生はご逝去されました。大高先生は昨年末に岡本台病院50年誌に「岡本台病院と私」を寄稿され、我々のことを気にかけてくれていました。その一節を引用し追悼文のまとめとします。

「関係職員の献身的な努力によって、今日までこの精神科救急医療システムが維持され、さらに最近では心神喪失者等医療観察法に基づく通院及び鑑定入院医療にも対応するまでに地域精神医療の基幹病院としての機能の充実が図られていることに、嘗てこの病院の運営に関わった者として心から喜びと敬意の念を抱いているところであります。」

統合失調症研究グループ

獨協医科大学精神神経医学講座・准教授

尾 関 祐 二

我々は統合失調症を対象に基礎から臨床にわたって研究をしております。これまでに、染色体異常を伴う特殊な統合失調症患者さんの家系を対象とした研究で、PSAT1という酵素の量が減っていることを見出しています。PSAT1という酵素は生体内でのL-セリンを合成する酵素の一つですが、L-セリンが減少すると、L-セリンを基に作られるD-セリンの量が減少する可能性があります。D-セリンはNMDA受容体のコアゴニストとしてNMDA受容体を介した伝達を促進しますが、統合失調症ではNMDA受容体の機能低下が病態仮説として取り上げられています。この家系での統合失調症は、PSAT1の量が減少していることと関連しているのかもしれませんが。統合失調症の原因にはいくつかの仮説が提出されていますが、いろいろな原因によって、共通の生物学的な問題が生じて、最終的に統合失調症の症状が生じていると考え、セリン合成系の異常がその一つではないかと想定しております。基礎的な面からは、L-セリン合成を調節する因子を見出す取り組みを行っており、藤井先生が中心になって取り組んでおります。また、一般の統合失調症患者さんでもPSAT1などL-セリン合成に問題がある人がいるのではないかと考え、患者さんのセリン合成の状態を調べることを計画し、実験の準備を進めています。

統合失調症の日常診療面からは、現在抗精神病薬治療と心電図のQT延長との関連を調査しています。抗精神病薬にはQT延長をきたす可能性があり、突然死の原因になることが知られていますが、その根拠は治験段階のデータや症例報告に基づくものが多く、多剤併用など必ずしも状況がコントロールされていない実際の臨床場面で薬物がどのような影響を及ぼすかに関しては報告もほとんどありませんので調査しています。さらに現在は抗うつ薬とQT延長との関連についても検討しています。近年はQT延長も遺伝子レベルでの問題が注目されており、本年度に入りNature Genetics紙上で2件の大規模遺伝子解析の結果が報告されています。今後は我々も、内服内容のみならず、遺伝子多型などの遺伝情報の違いによる個人間のQT延長リスク予想ができるように考えてゆくべきと考えています。こうした課題には現在大学院生の岡安先生や大栗先生に取り組んでもらっています。

また、将来的な新たな取り組みとして、統合失調症の日常診療では見逃されがちであるが、予後や社会機能を左右するうつ症状の合併に関しての調査を行い、介入方法の検討をしていきたいと考えています。

研究においては各先生方や職員のみな様の協力なくしては成り立ちません。まだまだ検討段階の研究も多く、進みは緩やかではありますが、これまで同様これからも皆様方の支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



前列左から大栗有美子先生、藤井久彌子先生、
後列左から岡安寛明先生、尾関祐二

人事往来(2008年10月以降)

■2008年度

鈴木武士、大平下病院へ転任（2009年1月1日）

■2009年度

石川高明、学内助教から助教に昇任（2009年4月1日）

鮎瀬 武、大栗有美子、岡安寛明、レジデントから学内助教に昇任（2009年4月1日）

岡安寛明、獨協医科大学大学院医学研究科（社会人大学院生）に入学（2009年4月1日）

萩野谷真人、麻酔科研修のため、麻酔科に転任（2009年4月1日）

上田幹人、滋賀里病院へ転任（2009年7月1日）

林 有希、レジデントとして採用（2009年8月1日）

石黒 慎、氏家病院から助教に復帰（2009年10月1日）

石川高明、両毛病院に転任（2010年1月1日）

齋藤 聡、石黒 慎、助教に昇任（2010年1月1日）

2010年1月現在の教室スタッフ

主任教授 下田和孝

准教授 尾関祐二

講師 大曾根 彰

学内講師 小杉真一、藤井久彌子、佐伯吉規

助教 石黒 慎、齋藤 聡

学内助教 鮎瀬 武、大栗有美子、岡安寛明

レジデント 林 有希、藤平明広

大学院生 石黒 慎（社会人大学院生）、岡安寛明（社会人大学院生）

臨床心理士 小西 徹

臨床心理士 船場美佐子

臨床心理士 坂本靖子（パートタイム）

医局秘書 堀田葉月

学内助教 萩野谷真人（麻酔科に出向中）

助教（派遣） 鈴木武士（大平下病院）、恵 武人（室井病院）、上田幹人（滋賀里病院）、
石川高明（両毛病院）

学内助教（派遣） 森 和也（佐藤病院）、室井宏文（朝日病院）

名誉教授 大森健一（滝澤病院）

特任教授 高橋三郎（埼玉江南病院）

非常勤講師 中野隆史（獨協大学）、朝日公彦（朝日病院）、朝日晴彦（朝日病院）、
黒田仁一（岡本台病院）、駒橋 徹（鹿沼病院）、藤沼仁至（大平下病院）、
堀 彰（岡本台病院）、渡邊昭彦（川村学園女子大学）、渡邊 崇（大平下病院）、
室井秀太（室井病院）

新入医局員挨拶

林 有希 (2008年8月入局 大阪府出身)

平成21年8月から当院精神科へ入局しました林 有希です。諸事情により、研修医ローテーションが終了するのが若干遅れてしまい、この時期からの入局となりました。私の母親は耳鼻科医で大阪にて開業医を営んでおり、小さい頃から親の背中を見て育ってきた私としては、研修医ローテーションを開始する前までは当院の耳鼻咽喉科への入局を自然と考えておりました。しかしながら、いろいろな科を研修している間に徐々に精神的分野への興味が高まってきました。当院の精神科には3ヶ月研修させていただき、石川先生をはじめとした諸先生方にご指導を賜りました。その間にうつ病や統合失調症などの精神疾患を経験させていただき、また抗精神病薬など精神科でしか扱わない薬がどのように作用するのかといった事にとっても興味が湧いてきました。また精神科医局の雰囲気もとても良く、2年間の研修が終了した頃には、すっかり精神科の魅力に取り付かれ、入局の意志を固めていました。入局後も日々、色々と新しい事を発見しては勉強の毎日あり、患者様と日々向き合いながら診療しております。このような中途からの入局で諸先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後とも皆様のご指導のほどよろしく願いいたします。

藤平 明広 (2009年4月入局 栃木県小山市 出身)

今年度より獨協医科大学精神神経科に入局致しました藤平明広と申します。

平成19年3月に獨協医科大学医学部医学科を卒業し、獨協医科大学病院にて初期研修を行いました。父親は皮膚科医、兄も当院皮膚科に入局しており、初期研修開始の段階では、将来は皮膚科か、若しくは総合的に内科を診られるようになるのが宜しいかと考えておりました。精神神経科は2年次ローテーション必修科であり、平成20年4月に研修させて頂きましたが、精神神経科という何とも説明しようのない独自性に魅了され、長考の末、入局を決意致しました。

入局してもうすぐ1年が経過しようとしております。他科とは違い、患者さんの訴え、症状が多様多様であり、一筋縄で解決するようなことはほぼ皆無と言っても過言ではありません。薬剤を処方した時、その薬剤が著効する患者さまもいれば、色々な薬剤を処方しても効果が乏しかったり、または内服してくれなかったり、内服しているふりをして飲まなかったり…、上記の通りの「独自性」が日々悩ましい限りです。

精神神経科は、薬物療法だけでなく、精神分析、行動療法などの心理療法があり、適応があれば電気けいれん療法を行ったりと勉強する範囲が多岐に渡っております。同期の友人、知人からは暇でしょ？時間あるでしょ？と聞いてくる方も少なくないのですが、どの科もそうですが、精神神経科も多忙な診療科のうちの一つであると思います。気分障害や神経症性障害、器質性精神障害等の患者数は今後確実に増加してくるものと思われ、益々精神神経科の重要性、必要性が一層高まっていくことと思われまます。

今までも、そしてこれからも諸先輩方にご迷惑を多々かけることとなりますが、皆様ご指導を何卒よろしく願い申し上げます。

新潟大学精神科ゴルフ部との対抗戦レポート

獨協医科大学精神神経医学講座

下 田 和 孝

これまで新潟大学精神科の合宿・コンペ（静岡、群馬、新潟）等にご参加いただき、下田和孝、上田幹人先生、石川高明先生、堀田葉月秘書が参加させていただきました。その後、ゴルフ経験のある岡安寛明先生、林有希先生が入局、石黒慎先生がゴルフを再開、また上田幹人先生の奥様もゴルフをはじめたことから、新潟大学とのゴルフ対抗戦のお誘いを受けました。2009年11月21日当日は好天に恵まれ、ジュンクラシックカントリークラブにおいて熱戦が繰り広げられました。優勝は石黒慎先生、準優勝は石川高明先生と獨協医科大学の1-2 finish、ベストグロスも上田幹人先生と予想外の結果でした。ネットスコアの平均で争った団体戦は新潟大学が80.28、獨協医科大学が83.57と染矢俊幸部長（「診療部長」ではなく「ゴルフ部部长」）の日頃のご指導によるレベルの違いを見せつけられました。



新潟大学・須貝拓郎先生より表彰される
石黒 慎先生



みなさん、おつかれさまでしたの集合写真

第19回日本臨床精神神経薬理学会・学会奨励賞を受賞して

獨協医科大学精神神経医学講座

佐伯吉規

2009年11月13日から15日まで京都国際会館で開催された第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会において、我々の研究論文(Saeki Y, Watanabe T, Ueda M, Saito A, Akiyama K, Inoue Y, Hirokane G, Morita S, Yamada N, Shimoda K. Genetic and pharmacokinetic factors affecting the initial pharmacotherapeutic effect of paroxetine in Japanese patients with panic disorder, European Journal of Clinical Pharmacology 65: 685-691, 2009)に対し、第19回日本臨床精神神経薬理学会・学会奨励賞を授与されました。

本研究は獨協医科大学精神神経科を受診した未治療のパニック障害外来患者を対象に、選択的セロトニン再取り込み阻害薬の1つであるparoxetine投与2週間時点での改善率を阻害する要因を探索したもので、結果として、①血中paroxetine濃度が高いこと、②セロトニントランスポーターの遺伝子多型がLアリル型であること、③身体的な合併症を有すること、という3つの因子が関与していることが判明し、臨床的にパニック障害患者に対するオーダーメイド薬物治療に突破口を開くものであります。今回の受賞は今後の臨床研究への励みになると共に、この場をお借りし、研究を指導して頂いた下田和孝教授をはじめとするゲノム薬理研究グループのメンバーおよび協力を頂きましたスタッフの方々に深く感謝の念を表したいと思っております。



左から中村 純・産業医科大学教授（日本臨床精神神経薬理学会・学術審査委員会委員長）、大森哲郎・徳島大学教授（同学会・第19回年会会長）、鈴木健文先生（慶應義塾大学）、吉村玲児先生（産業医科大学）、佐伯吉規、兼子 直・弘前大学教授（同学会・理事長）

平成21年度 獨協医科大学精神神経医学教室同門会総会議事録

平成21年12月12日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

当日15名の出席、34名からの委任状により総会開催となりました。

下記にて議事進行されました。

1、会長挨拶 黒田会長

2、議事

(1) 平成20年度 事業報告

1、同門会総会開催 平成20年12月20日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

2、記念講演会開催 平成20年12月20日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

「獨協医大精神科教室創設のころの思い出」帝塚山学院大学 小田 晋 先生

3、会誌発行 平成21年3月

4、会員名簿発行 平成21年3月

5、宮坂賞選考・表彰 平成20年12月20日

受賞者 臨床部門 佐伯吉規 先生

研究部門 上田幹人 先生

(2) 平成20年度 決算報告

(3) 平成21年度 事業計画

1、同門会総会開催 平成21年12月12日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

2、記念講演会開催 平成21年12月12日 於：宇都宮東武ホテルグランデ

3、会誌発行 平成22年3月予定

4、会員名簿発行 平成22年3月予定

5、宮坂賞選考・表彰 今年度は下記の先生が受賞されました。

受賞者 臨床部門 岡安寛明 先生

研究部門 石川高明 先生

(4) 平成21年度 収支予算（詳細は略させていただきます。）

(1)～(4)について、会計責任者、監事からの説明があり承認されました。

(5) 役員改選（平成22年度、23年度役員）

会 長；黒田仁一【再任】

世話人；斎藤 治【再任】 藤沼仁至【再任】 朝日晴彦【再任】

松村 茂【再任】 佐伯吉規【再任】

監 事；佐藤勇人【再任】 駒橋 徹【新任】

(6) 来年度からの総会開催について

総会出席者が少ないことから、総会開催日程、場所などについてアンケート調査を実施することになりました。

以上にて、無事総会が終了しました。

— 写真で見る講座・大学の動きおよび学会出張記 —



小田 晋先生の講演会
(2008年度同門会総会 (2008年12月20日) にて)



2008年・忘年会の出し物「セクシー病棟医長」出し物に対するコメントに窮する大森健一名誉教授
(2008年・忘年会 (2008年12月20日) にて)



茨城県大洗へ医局旅行。大森健一名誉教授を囲んで
(2009年3月14日～15日、茨城県大洗にて)



いまだき珍しくこういうものも囲んで・・・



佐伯吉規先生、学位取得



石黒先生、カザフスタン人だったの？
(22nd European College of Neuropsychopharmacology Congress参加票)



あの狭い外来から近代化！広さは倍近くになりました。患者さんの評判も上々。
医局員の頑張りが認められたのだと思います。



22nd European College of Neuropsychopharmacology Congress@Istanbul
(渡邊 崇先生、上田幹人先生、石黒 慎先生)



トルコでもどこでも、何はなくともこれです、
魚も結構おいしかったです、高かったけど



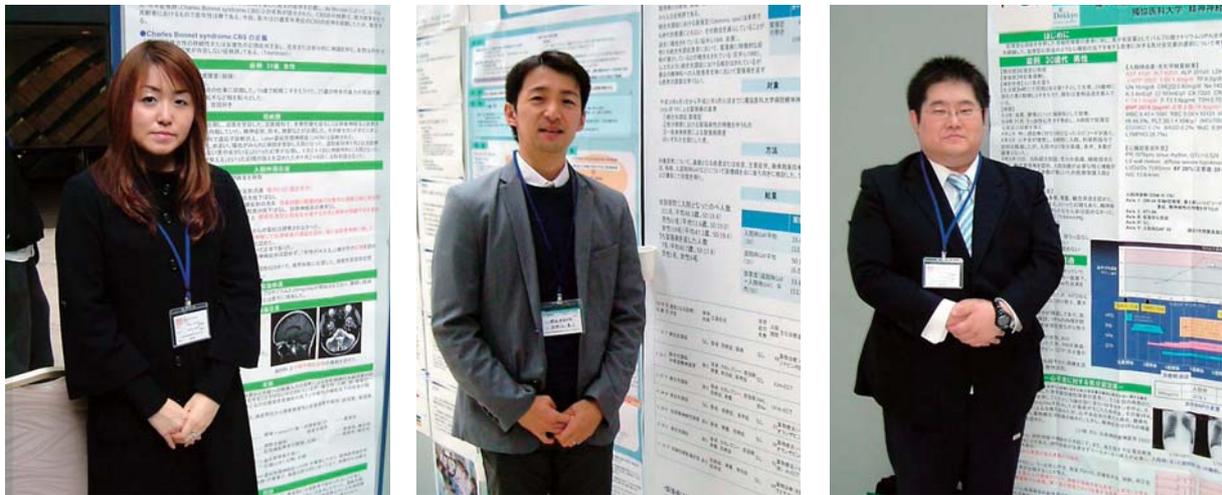
イスタンブール・ガラタ橋でみかけたおじさん。
体重を計るのが仕事のように。



第19回日本臨床精神神経薬理学会の際に京都・新三浦にて。
そのあとはマガモでしめる(?) Bloomer 55にて



2009年度認知症疾患医療センター講演会 (2009年9月5日)。長門裕之さんをお招きしました。



第22回総合病院精神医学会（左から大栗有美子先生、萩野谷真人先生、藤平明広先生）



一瀬邦弘先生の講演会
（2009年度同門会総会（2009年12月12日）にて）



こういうショットはひさしぶり（左から朝日晴彦先生（朝日病院）、佐藤勇人先生（佐藤病院）、朝日公彦先生（朝日病院）、駒橋 徹先生（鹿沼病院）、松村 茂先生（氏家病院）、岡田正樹先生（菊池病院）、室井秀太先生（室井病院）、2009年・忘年会（2009年12月12日）にて）



秋山一文先生（獨協医科大学精神生物学講座）、
高橋三郎先生（埼玉江南病院）
2009年忘年会（2009年12月12日）にて



2009年はやはり大統領とMJでしょう
（2009年忘年会（2009年12月12日）にて）



ドクターヘリ、2009年1月20日より稼働



2009年秋、医局集合写真

— 2008年～2009年の講座業績 —

獨協医科大学精神神経医学講座・主任教授
下 田 和 孝

前号と同様、同門会誌の紙面をお借りして、業績をまとめさせていただくことを黒田仁一会長にご快諾いただきましたことを深謝いたします。業績内容として英文原著を増やすことが今後の課題であると考えます。

今後とも同門会の先生方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

— 2008年 —

<原 著>

渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下田和孝
多剤併用からolanzapineに変更後、clonazepamの追加で遅発性ジストニアが改善した1例
臨床精神薬理 11: 1337-1342, 2008.

渡邊 崇、上田幹人、鮎瀬 武、石黒 慎、佐伯吉規、下田和孝
パニック発作を呈した甲状腺機能低下症の1例
精神科治療学 23: 1013-1017, 2008.

渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下田和孝
Quetiapineへの置換とfluvoxamineの減量により遅発性ジストニアが改善した1例
臨床精神薬理 11: 2311-2316, 2008.

一杉正仁、菅谷 仁、妹尾 正、平林秀樹、妹尾 正、下田和孝、田所 望、古田裕明
医師国家試験模擬試験におけるマークミスについての解析
Dokkyo Journal of Medical Sciences, 35: 79-84, 2008.

<総 説>

藤井久彌子、下田和孝
高齢者の薬物療法の問題点 精神科領域疾患
臨床薬理 39: 18-24, 2008.

石川高明、小杉真一、下田和孝
気分障害（うつ病・躁うつ病） 「薬局」（南山堂）2008年3月増刊号 病気と薬パーフェクトbook pp865-pp870, 2008.

渡邊 崇、上田幹人、佐伯吉規、下田和孝
不安障害のオーダーメイド薬物療法の可能性
- パニック障害を中心に -
精神神経学雑誌 110: 633-638, 2008.

<分担執筆>

森田幸代、下田和孝
疼痛以外の症状の緩和ケアの実際 精神的ケア 不安/不眠/抑うつ
がん緩和ケア 必携ベッドサイドで役立つ癌緩和ケアマニュアル（編 東原正明） 新興医学出版社、pp101-pp108, 2008.

渡邊 崇、下田和孝
臨床精神薬理学テキストブック（日本臨床精神神経薬理学会編） 薬物有害反応
星和書店 第2版 pp100-pp110, 2008.

<その他>

渡邊 崇、下田和孝
Tandospironeはアルコール依存症に伴う不安・抑うつ症状に対して有効か？
臨床精神薬理 11: 78-80, 2008.

渡邊 崇、下田和孝
Clobazamと他のbenzodiazepine系薬物との違いを教えてください
臨床精神薬理 11: 266-268, 2008.

大栗有美子、渡邊 崇、下田和孝
抗精神病薬間で、服薬を中止してから精神病が再発するまでの期間に差があるか？
臨床精神薬理 11: 457-458, 2008.

石黒 慎、佐伯吉規、渡邊 崇、下田和孝
Quetiapineの離脱症候群について知りたい
臨床精神薬理 11: 669-670, 2008.

渡邊 崇、大曾根 彰、下田和孝
大うつ病に対する抗うつ薬の使い分けについて教えてください
臨床精神薬理 11: 949-952, 2008.

秋山一文、下田和孝
オーダーメイド精神科薬物療法をめざして
精神神経学雑誌 110: 621-622, 2008.

下田和孝
最近の若者研究事情について
精神医学 50: 632-633, 2008.

<学会発表>

齋藤 淳、秋山一文、佐伯吉規、萩野谷真人、下田和孝
ヘルマンスキー・パドラック症候群合併例からの統合失調症脆弱性決定遺伝子の探索研究
第31回栃木県臨床と薬理研究会、2008年1月24日、宇都宮

佐伯吉規、濱口眞輔、下田和孝、倉沢和宏
線維筋痛症患者における髄液中IL-8値の修正電気けいれん療法前後の変化
第37回日本慢性疼痛学会、2008年2月22日-23日、宇都宮

橋爪義隆、佐伯吉規、下田和孝、山口重樹、北島敏光
自己免疫性疲労症候群および線維筋痛症が疑われた症例に対するオピオイドとガバペンチンの併用療法
第37回日本慢性疼痛学会、2008年2月22日-23日、宇都宮

鮎瀬 武、藤井久彌子、田中秀明、下田和孝
突発性難聴を契機に幻聴を認めるようになった認知症の1例
東京精神医学会第82回学術集会、2008年3月8日、東京

室井宏文、佐伯吉規、大曾根 彰、下田和孝
成人の周期性嘔吐症の一例
第49回日本心身医学会総会、2008年6月12-13日、札幌

大栗有美子、大曾根 彰、下田和孝
離婚問題に直面し、解離性障害、転換性障害に陥った40歳台男性の1例
第83回東京精神医学会、2008年7月12日、東京

室井宏文、佐伯吉規、大曾根 彰、下田和孝
クロミプラミンが奏功した12年間の経過を持つ慢性疲労症候群の1例
第83回東京精神医学会、2008年7月12日、東京

室井宏文、室井秀太、佐伯吉規、下田和孝
抑肝散とバルプロ酸の併用が周辺症状に有効であったFTDの1例
漢方学術講演会、2008年7月16日、宇都宮

佐伯吉規、下田和孝、濱口眞輔、倉沢和宏
線維筋痛症患者における髄液中Interleukin-8の修正電気けいれん療法前後の変化
第42回日本ペインクリニック学会、2008年7月18日-20日、福岡

岡安寛明、佐伯吉規、下田和孝
炭酸リチウム60gを過量服薬後救命しえた双極性障害の1例
第27回栃木感情障害研究会、2008年11月20日、宇都宮

佐伯吉規、濱口眞輔、下田和孝
「心因性疼痛」は存在するのか？～獨協医科大学精神神経科での調査から～
第21回総合病院精神医学会、2008年11月28日-29日、千葉

室井宏文、大曾根 彰、下田和孝
クロミプラミンが奏効した12年間の経過を持つ慢性疲労症候群の一例
第21回総合病院精神医学会、2008年11月28日-29日、千葉

萩野谷真人、佐伯吉規、下田和孝
電子カルテにおける情報管理の問題点～医療従事者による電子カルテ視き～
第21回総合病院精神医学会、2008年11月28日-29日、千葉

鮎瀬 武、石黒 慎、渡邊 崇、上田幹人、佐伯吉規、廣兼元太、森田幸代、山田尚登、秋山一文、
下田和孝
パニック障害患者のparoxetine(PAX)の初期治療反応性:PAX血中濃度、5HTTLPR遺伝子型、治療前血中TSH
値の影響
第18回日本臨床精神神経薬理学会・第38回日本神経精神薬理学会合同年会、2008年10月1日-3日、東京

上田幹人、渡邊 崇、佐伯吉規、石黒 慎、鮎瀬 武、広兼元太、森田幸代、山田尚登、齋藤 淳、
秋山一文、下田和孝
パニック障害患者のparoxetine治療におけるノンアドヒアランスとセロトニントランスポーター遺伝子多型
について
第29回日本臨床薬理学会、2008年12月4日-6日、東京

大栗有美子、佐伯吉規、石川里子、下田和孝
セルトラリン投与によりStevens-Johnson症候群が惹起された症例
第29回日本臨床薬理学会、2008年12月4日-6日、東京

菊池 仁、根本真人、星山栄成、神津成紀、佐伯吉規、松島久雄、小野一之、崎尾秀彰
当院救命救急センターの自殺・自殺企図患者に対する検討
第36回日本救急医学会、2008年10月13日-15日、札幌

<シンポジウム>

下田和孝
慢性疼痛患者の心をさぐる 精神科医の立場から～精神科医による疼痛の治療アプローチ～
第37回日本慢性疼痛学会、2008年2月22日-23日、宇都宮

渡邊 崇、上田幹人、佐伯吉規、下田和孝

-オーダーメイド精神科薬物療法をめざして- 不安障害のオーダーメイド薬物療法の可能性
-パニック障害を中心に-

第104回日本精神神経学会学術総会、2008年5月29日-5月31日、東京

Shimoda K, Watanabe T, Ueda M, Saeki Y, Ayugase T, Ishiguro S.

Pharmacogenetics of psychotropics : the impact on pharmacokinetics and pharmacodynamics of neuroleptics, tricyclic antidepressants and selective serotonin reuptake inhibitors

XIII Pacific Rim College of Psychiatrists, October 30-November 2, 2008, Tokyo, Japan

<その他の講演>

下田和孝、石黒 慎、鮎瀬 武、渡邊 崇、佐伯吉規、上田幹人

オーダーメイド精神科薬物療法の展望

沖縄県精神科セミナー、2008年3月24日、那覇

下田和孝、石黒 慎、鮎瀬 武、渡邊 崇、佐伯吉規、上田幹人

オーダーメイド精神科薬物療法の可能性について

北信精神科診療所医会講演会、2008年4月17日、長野

- 2009年 -

<原著>

Saeki Y, Watanabe T, Ueda M, Saito A, Akiyama K, Inoue Y, Hirokane G, Morita S, Yamada N, Shimoda K
Genetic and pharmacokinetic factors affecting the initial pharmacotherapeutic effect of paroxetine in Japanese patients with panic disorder *European Journal of Clinical Pharmacology* 65: 685-91, 2009

Saito A, Fujikura-Ouchi Y, Ito C, Matsuoka H, Shimoda K, Akiyama K

An association study on polymorphisms in the PEA15, ENTPD4 and GAS2L1 genes and schizophrenia.

Psychiatry Research(in press)

Takahashi M, Hayashi H, Watanabe Y, Sawamura K, Fukui N, Watanabe J, Kitajima T, Yamanouchi Y, Iwata N, Mizukami K, Hori T, Shimoda K, Ujike H, Ozaki N, Iijima K, Takemura K, Aoshima H, Someya T.

Diagnostic classification of schizophrenia by neural network analysis of blood-based gene expression signatures. *Schizophrenia Research* E-pub ahead of print doi:10.1016/j.schres.2009.12.024

Ozeki Y, Fujii K, Kurimoto N, Yamada N, Okawa M, Aoki T, Takahashi J, Ishida N, Horie M, Kunugi H.

QTc prolongation and antipsychotic medications in a sample of 1,017 patients with schizophrenia.

Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry (in press)

Hori H, Ozeki Y, Teraishi T, Matsuo J, Kawamoto Y, Kinoshita Y, Suto S, Terada S, Higuchi T, Kunugi H.
Relationships between psychological distress, coping styles, and HPA axis reactivity in healthy adults. *Journal of Psychiatric Research*. (in press)

江川 純、遠藤太郎、染矢俊幸、下田和孝、塩入俊樹、山田尚登、高橋三郎

精神科疾患の診断をめぐる諸問題-精神科医327名のアンケート調査から-。精神医学（印刷中）

<総説>

大曾根 彰、下田和孝

精神科の薬物治療アルゴリズム、こころの科学 143: 91-97, 2009.

上田幹人、尾関祐二、下田和孝

改めてうつ病中核群を問う-生物学的な見地から-

精神科治療学 24: 81-84, 2009.

石川高明、小杉真一、下田和孝
気分障害（うつ病・躁うつ病） 「薬局」（南山堂）2009年3月増刊号 病気と薬パーフェクトbook pp861-866, 2009.

石黒 慎、渡邊 崇、佐伯吉規、上田幹人、下田和孝
パニック障害に対する選択的セロトニン再取り込み阻害薬の効果と投与方法
臨床精神薬理 12: 1899-1903, 2009.

佐伯吉規、下田和孝
抗真菌薬と向精神薬併用における注意点
～抗真菌薬のcytochrome P450阻害作用という観点から～
精神科治療学 24: 839-843, 2009.

下田和孝
精神医学における薬理遺伝学の展開とオーダーメイド精神科薬物治療の展望
精神神経学雑誌 111: 1556-1561, 2009.

尾関祐二 藤井久彌子 統合失調症の分子病態研究 脳と精神の医学 20: 347-353, 2009.

<その他>

大栗有美子、渡邊 崇、大曾根 彰、下田和孝
Clozapineにより高血圧が起こるか?
臨床精神薬理 12: 2157-2158, 2009.

石黒 慎、渡邊 崇、佐伯吉規、上田幹人、下田和孝
パニック障害に対する選択的セロトニン再取り込み阻害薬の効果と投与方法
臨床精神薬理 12: 1899-1903, 2009.

渡邊 崇、大曾根 彰、下田和孝
セロトニン症候群の治療薬について知りたい
臨床精神薬理 12: 1815-1816, 2009.

渡邊 崇、鮎瀬 武、大曾根 彰、下田和孝
双極性障害のrapid cyclingに対する第1選択として推奨される気分安定薬とは?
臨床精神薬理 12: 1156-1158, 2009.

石黒 慎、渡邊 崇、大曾根 彰、下田和孝
パニック障害に対してSSRIによる治療が無効であった場合、どのような薬物療法が適応になるか? 臨床精神薬理 12: 689-691, 2009.

渡邊 崇、大曾根 彰、下田和孝
Mianserinとmirtazapineは、ともに四環系抗うつ薬であるが、その違いは?
臨床精神薬理 12: 273-274, 2009.

萩野谷真人、下田和孝
乳がんに対する遺伝子検査に関連した心理的苦痛とQOL 緩和医療学 11:180, 2009.

下田和孝
昨今の大学院進学および学位取得事情について
最新精神医学 14: 417, 2009.

<分担執筆>

下田和孝
第3章 臨床試験実施のプロセス 第2 4 節 精神科領域の臨床試験の留意点
創薬有薬医療スタッフのための臨床試験テキストブック pp228-pp231 メディカルパブリケーションズ、2009.

上田幹人、下田和孝
強迫症状を伴う統合失調症へのプロナンセリンの効果
プロナンセリンの100の報告-100人の臨床家によるDSAの臨床経験- 編集 村崎光邦 星和書店、187-189、
2009.

大曾根 彰、下田和孝
精神神経治療薬
医学生必須医薬品、医学書院（印刷中）

尾関祐二、下田和孝
抗うつ薬
「臨床薬理学」第三版、医学書院（印刷中）

尾関祐二、下田和孝
抗精神病薬
「臨床薬理学」第三版 医学書院（印刷中）

佐伯吉規、下田和孝
日本総合病院精神医学会 治療指針
身体疾患治療薬と向精神薬との相互作用
「膠原病、リウマチ疾患 ～免疫抑制剤を中心に～」(日本総合病院精神医学会 教育・研究委員会編集(担当：八田耕太郎))、星和書店、東京（印刷中）

藤井久彌子、尾関祐二、下田和孝
うつ・不安の治療 2. 薬物療法 a. うつ(薬物療法アルゴリズムを含む)
脳とこころのプライマリケア うつと不安(編 下田和孝) シナジー(印刷中)

佐伯吉規、濱口眞輔、北島敏光、下田和孝
修正型電気けいれん療法
脳とこころのプライマリケア うつと不安(編 下田和孝) シナジー(印刷中)

大曾根 彰、下田和孝
評価尺度 不安 脳とこころのプライマリケア うつと不安(編 下田和孝) シナジー(印刷中)

藤井久彌子
薬剤による精神障害 今日の治療指針2011年版、医学書院(印刷中)

渡邊 崇、下田和孝
アルツハイマー病の病因と治療薬、その他の抗認知症薬
臨床薬理学(中谷晴昭、越前宏敏、大橋京一編)、朝倉書店(印刷中)

室井秀太、下田和孝
抗うつ薬と抗躁薬の薬理作用と臨床応用
臨床薬理学(中谷晴昭、越前宏敏、大橋京一編)、朝倉書店(印刷中)

上田幹人、下田和孝
抗精神病薬の薬理作用と臨床応用
臨床薬理学(中谷晴昭、越前宏敏、大橋京一編)、朝倉書店(印刷中)

秋山一文、小杉真一、下田和孝
抗不安薬、睡眠薬、アルコールの薬理作用・臨床応用
臨床薬理学(中谷晴昭、越前宏敏、大橋京一編)、朝倉書店(印刷中)

神谷 篤、下田和孝
薬剤師のための臨床薬物治療学 2. 精神疾患 南江堂(印刷中)

<国際学会発表>

Ueda M, Watanabe T, Saeki Y, Saito A, Akiyama K, Inoue Y, Morita S, Hirokane G, Yamada N, Shimoda K.
The factors that influence the therapeutic response to paroxetine in patients with panic disorder: longitudinal study. 22nd annual meeting of European College of Neuropsychopharmacology, Sep 12-16, 2009, Istanbul, Turkey

Ozeki Y, Pickard BS, Fujii K, Malloy MP, Wakuie K, Shirayama Y, Fukushima Y, Kunugi H, Hashimoto K, Muir WJ, Blackwood DH, Sawa, A. Low serum L-serine and glutamate in a schizophrenic patient and son with a chromosomal translocation affecting phosphoserine aminotransferase 1 (PSAT1) mRNA expression. 39th annual meeting of the Society for Neuroscience. Oct. 17-21 2009, Chicago, USA

<国内学会発表>

岡安寛明、佐伯吉規、下田和孝

炭酸リチウム60gを過量服薬後、大量輸液にて救命しえた双極性障害の1例 -透析施行例と比較して-
第29回リチウム研究会、2009年4月18日、東京

尾関祐二、Pickard BS、藤井久彌子、Malloy MP、本多 真、白山幸彦、涌井敬子、福嶋義光、功刀 浩、Muir WJ、伊豫雅臣、橋本謙二、Blackwood DH、澤 明
染色体転座を持つ統合失調症患者の検討 -PSAT1 mRNA発現低下と血清L-セリン及びグルタミン酸低下-
第31回日本生物学的精神医学会、2009年4月23日-25日、京都

藤平明広、岡安寛明、佐伯吉規、下田和孝

拡張型心筋症を合併した双極性障害の一例 ~気分安定薬の選択についての考察~
第28回栃木精神科学術研究会、2009年6月25日、宇都宮

統合失調症に対するプロナンセリンの使用経験

大栗有美子、大曾根 彰、室井秀太、下田和孝
ロナセン発売一周年記念講演会、2009年7月16日、宇都宮

青島英幸、林 浩之、飯島 健太郎、竹村一男、引地一昌、岩田仲生、朝田 隆、下田和孝、氏家 寛、尾崎紀夫、染矢俊幸

DNAマイクロアレイによる統合失調症の診断方法開発の試み
第16回日本遺伝子診療学会、2009年7月30日-8月1日、札幌

渡邊 崇、下田和孝

大うつ病を合併した睡眠相後退症候群の1例
第5回栃木県不安・抑うつフォーラム、2009年9月3日、小山

大曾根 彰、藤平明広、齋藤 聡、下田和孝

パーソナリティ障害診断における構造化面接の意義
-臨床診断と構造化面接による診断の比較から-
第29回日本精神科診断学会、2009年10月16日-17日、東京

齋藤 聡、小杉真一、尾関祐二、下田和孝

イミペネム/シラスチンナトリウムにてけいれん発作が誘発されたと考えられたアルツハイマー型認知症の一例
第14回日本神経精神医学会、2009年11月5日-6日、仙台

石黒 慎、渡邊 崇、鮎瀬 武、上田幹人、齋藤 淳、秋山一文、加藤和子、山田尚登、森田幸代、井上義政、下田和孝

セロトントランスポーター、セロトニン1A受容体遺伝子多型、paroxetine血中濃度がパニック障害の治療反応性に与える影響
第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会、2009年11月13日-15日、京都

岡安寛明、尾関祐二、藤井久彌子、大栗有美子、佐伯吉規、功刀 浩、下田和孝
気分障害、不安障害、適応障害患者に対する抗うつ薬治療におけるQT延長リスクの検討
第19回日本臨床精神神経薬理学会・第39回日本神経精神薬理学会合同年会、2009年11月13日-15日、京都

大栗有美子、藤井久彌子、渡部由佳、岡安寛明、尾関祐二、平田幸一、下田和孝
若年性のシャルル・ボネ症候群の一例
第22回日本総合病院精神医学会、2009年11月27日-28日、大阪

藤平明広、岡安寛明、佐伯吉規、下田和孝
拡張型心筋症を合併した双極性障害の1症例 ～気分安定薬の選択についての考察～
第22回日本総合病院精神医学会、2009年11月27日-28日、大阪

萩野谷真人、佐伯吉規、尾関祐二、濱口眞輔、北島敏光、下田和孝
入院患者における緊張病の臨床的特徴
第22回総合病院精神医学会、2009年11月27日-28日、大阪

萩野谷真人、佐伯吉規、尾関祐二、濱口眞輔、北島敏光、下田和孝
入院患者における緊張病の臨床的特徴
第22回総合病院精神医学会、2009年11月27日-28日、大阪

岡安寛明、尾関祐二、下田和孝
気分障害、不安障害、適応障害患者に対する抗うつ薬におけるQT延長リスクの検討
第37回獨協医学会、2009年12月5日、壬生町

石黒 慎、渡邊 崇、佐伯吉規、鮎瀬 武、上田幹人、齋藤 淳、秋山一文、加藤和子、井上義政、下田和孝
パニック障害の薬物治療反応性に対して、paroxetine血中濃度、セロトニントランスポーター、セロトニン
1A受容体遺伝子多型が与える影響
第30回日本臨床薬理学会、2009年12月3日-12月5日、横浜

渡邊 崇、下田和孝
社会復帰を志向した統合失調症の薬物療法
エビリファイ発売3周年記念学術講演会、2009年12月9日、宇都宮

<シンポジウム・教育講演など>

佐伯吉規
ECTにおける生物学的変化への探索 ～「痛み」という観点から～
第31回日本生物学的精神医学会、2009年4月23-25日、京都

下田和孝
精神医学における薬理遺伝学の展開とオーダーメイド精神科薬物治療の展望
第105回日本精神神経学会学術総会、2009年8月21日-23日、神戸

高橋三郎、江川 純、遠藤太郎、染矢俊幸、下田和孝、塩入俊樹、山田尚登
プレナリーセッション「伝統的診断と操作的診断-うしなわれたものと見いだされたもの」
精神科疾患の治療と告知と診断学 -精神科医327名のアンケート調査から-
第29回日本精神科診断学会、2009年10月16-17日、東京

佐伯吉規、下田和孝
シンポジウム リエゾン活動のための各種身体疾患治療薬と向精神薬との相互作用
身体疾患治療薬と向精神薬との相互作用 ～膠原病、リウマチ疾患～
第22回総合病院精神医学会、2009年11月27日-28日、大阪

<公開講座など>

藤井久彌子
「認知症が疑われたら」 認知症の症状を理解する
平成21年度獨協医科大学健康講座、2009年7月11日、宇都宮

尾関祐二

認知症との付き合い方 ―医療の役割を中心として―

平成21年度獨協医科大学認知症疾患センター講演会、2009年9月5日、壬生町

尾関祐二

「認知症が疑われたら」 認知症の症状を理解する

平成21年度獨協医科大学健康講座、2009年9月26日、壬生町

尾関祐二

「認知症が疑われたら」 認知症の症状を理解する

平成21年度獨協医科大学健康講座、2009年10月3日、小山

<その他の講演>

下田和孝

うつ病について

ポニー薬局勉強会、2009年1月16日、矢板

下田和孝

うつ病の薬物治療の現況について

山形臨床精神薬理研究会、2009年5月16日、山形

下田和孝

薬理遺伝学の展開とオーダーメイド精神科薬物治療の展望

第3回大分統合失調症セミナー、2009年6月17日、大分

下田和孝

プライマリケアにおけるうつ病診療のポイント

壬生町医師会学術講演会、2009年6月26日、壬生町

編集後記

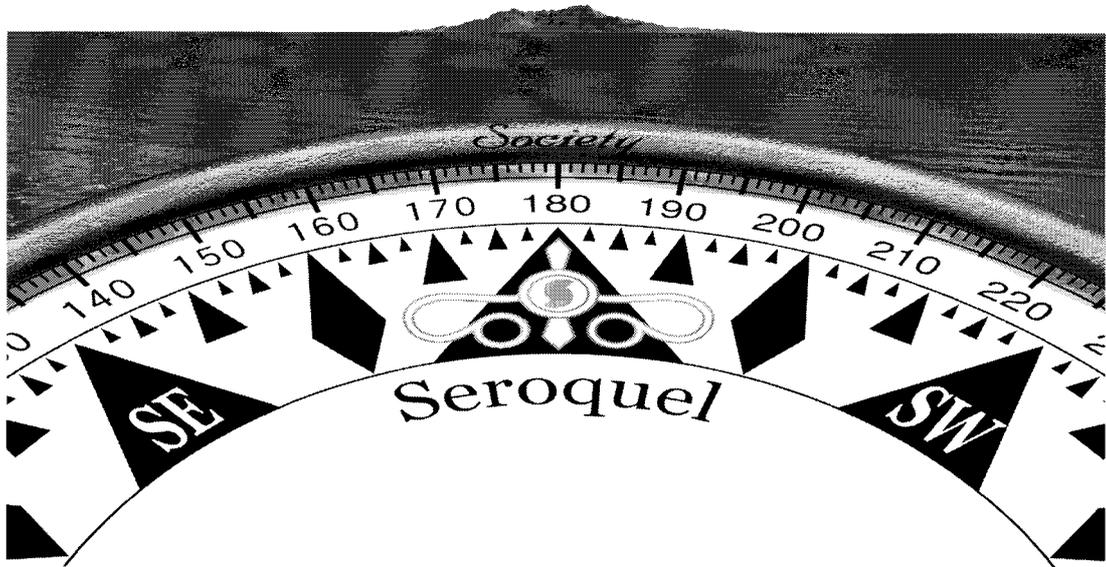
獨協医科大学精神神経医学教室同門会誌第1号を発刊してから一年以上が経過した。今回感じたのは第1号が「産みの苦しみ」なら第2号は「継続の苦しみ」である。読み物である以上、いわゆる「つかみ」が必要であるし、「企画」も重要である。しかし、なかなかいいネタは思いつかないものである。そういった才のない小生にとって全国の精神医学教室から送られてくる同門会誌・教室誌は大変に参考になる。「これはわが教室の同門会誌のぱくりではないか！」などと目くじらを立てず、温かく見守っていただければ幸いである(KS)。

獨協医科大学精神神経医学教室 同門会誌 第2号

平成22年5月1日発行

編集発行人 獨協医科大学精神神経医学教室同門会
発行所 獨協医科大学精神神経医学教室同門会
獨協医科大学精神神経医学教室内
栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
TEL 0282-86-1111 (代表)

印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5丁目9番21号
TEL 028-662-2511



抗精神病剤(クエチアピンフマル酸塩製剤) 薬価基準収載

 **セロクエル**[®] 25mg錠
100mg錠 細粒50%
200mg錠

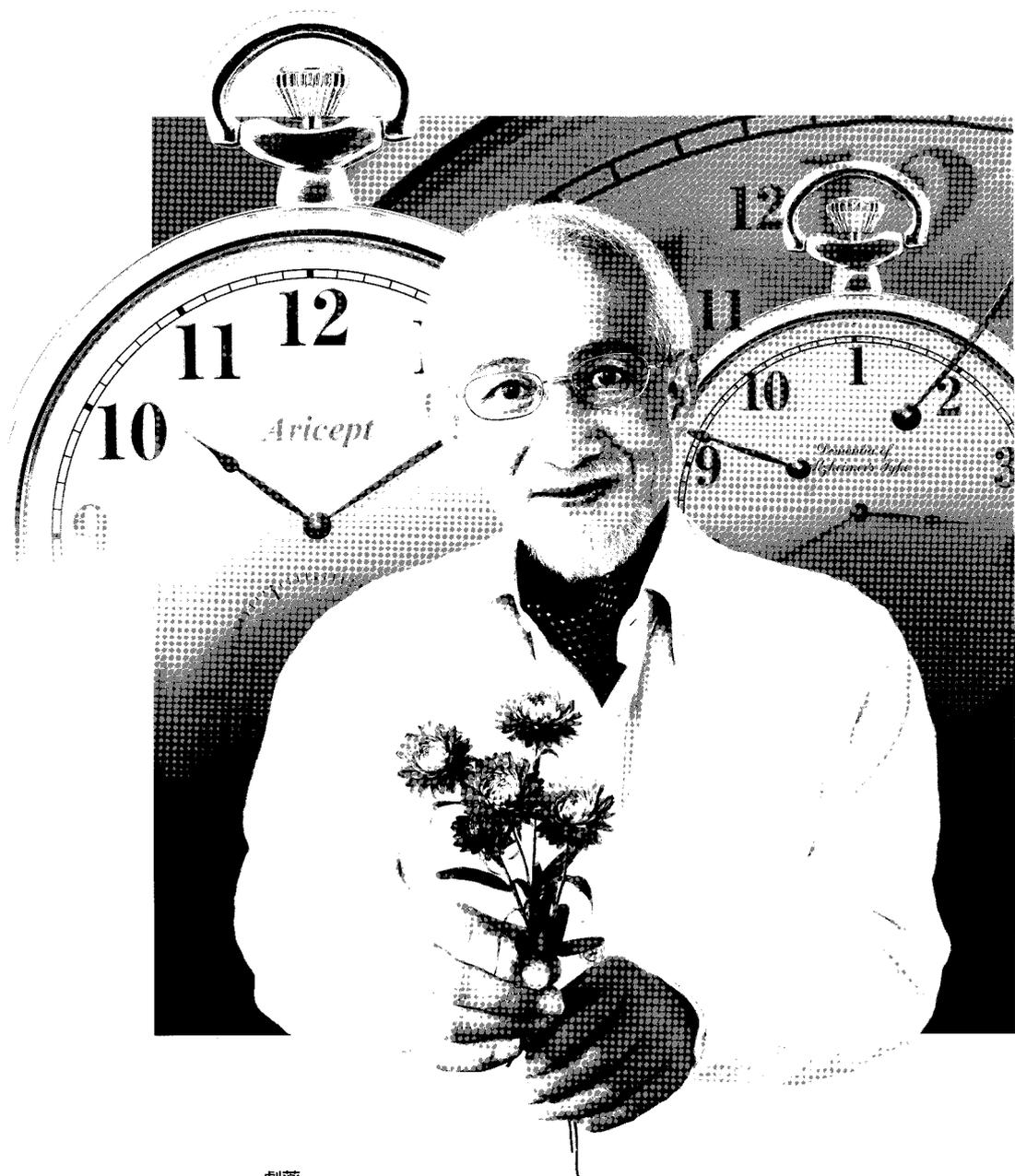
劇薬、処方せん医薬品
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

Seroquel[®]

■「効能・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **アステラス製薬株式会社**
東京都板橋区蓮根3-17-1
[資料請求先] 本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

 提携 **AstraZeneca UK Ltd**
®: アストラゼネカグループの登録商標です。



劇薬
 処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること (薬価基準収載)

アルツハイマー型認知症治療剤

アリセプト®
 錠 3mg
 錠 5mg
 錠 10mg
 細粒 0.5%

〈ドネペジル塩酸塩製剤〉

アリセプトD®
 錠 3mg
 錠 5mg
 錠 10mg

〈ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠〉

● 効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **Eisai** エーザイ株式会社
 東京都文京区小石川4-6-10

販売提携 **Pfizer** ファイザー株式会社
 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン／ファイザー株式会社 製品情報センター

“むぎわらぎく”の花言葉「永遠の記憶、思い出」

ART0903-7 2009年3月作成

ABILIFY®



エビリファイ
内用液0.1%
新発売

抗精神病薬

エビリファイ

ABILIFY®

〈アリピプラゾール製剤〉

劇薬、処方せん医薬品
注意—医師等の処方せんにより使用すること

錠3mg

錠6mg

® 錠12mg

散1%

内用液0.1%

薬価基準収載

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意及び用法・用量に関連する使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

製造販売元
大塚製薬株式会社
Otsuka 東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先
大塚製薬株式会社 信頼性保証本部 医薬情報センター
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー

〈'09.08作成〉



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer



選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI) 薬価基準収載

劇薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

パキシル[®]錠20mg 錠10mg

Paxil[®] Tablets パロキセチン塩酸塩水和物錠

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元・資料請求先

グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>
<http://paxil.jp>

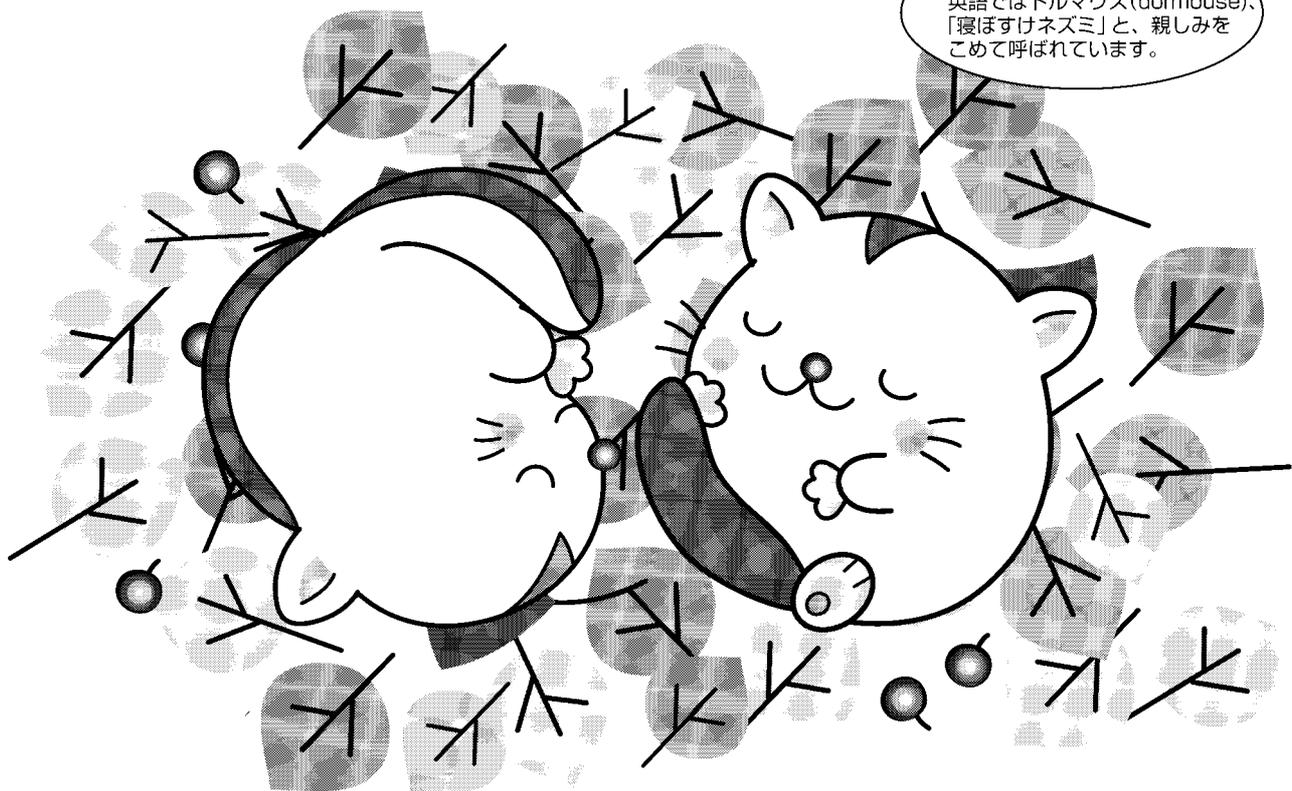
プロモーション提携

吉富薬品株式会社
大阪市中央区北浜 2-6-18

2009年10月作成



冬眠する習性のあるヤマネは、
英語ではドルマウス(dormouse)、
「寝ぼすけネズミ」と、親しみを
こめて呼ばれています。



睡眠障害改善剤

薬価基準収載

ドラル錠[®] 15・20

DORAL[®] TABLETS (クアゼパム錠)

向精神薬 | 習慣性医薬品 | 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



販売 (資料請求先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区北浜2-6-18



プロモーション提携
吉富薬品株式会社
大阪市中央区北浜2-6-18
<http://www.yoshitomi.jp/>



製造販売元
久光製薬株式会社
佐賀県鳥栖市田代大官町408

DR-(A4) 2009年10月作成

おだやかに、すこやかに

虚弱な体質で
神経がたかがるものの

神経症、不眠症に

54

ヨクカンサン
ツムラ抑肝散
エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

虚弱な体質で神経がたかぶって、怒りやすい、イライラする、眠れないなどの症状を訴える場合に使用します。

日常生活動作(ADL)と認知機能に影響を与えることなく、興奮性、焦燥感などの神経症症状(認知症患者にみられる周辺症状<BPSD>)を改善します。¹⁾²⁾ BPSD: Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia

神経系(グルタミン酸、セロトニン)への作用が認められ、BPSD様モデル^{*}での攻撃性を抑制します。(in vitro、マウス、ラット)^{3)~8)}

^{*}認知症発症モデルの中で中核症状とともに周辺症状(攻撃性)を併発する動物モデルの総称をBPSD様モデル動物と呼んでいる(^{*}1、^{*}2)

^{*1} 村田篤信 ほか、日本神経精神薬理学雑誌、2004、204、p.93。 ^{*2} Vloeberghs, E. et al. Eur J Neurosci. 2004、20、p.2757。

主な副作用は低カリウム血症などによる偽アルドステロン症、ミオパシーなどです。

・一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなどご注意下さい。・グリチルリチン酸製剤、利尿剤などとの併用にご注意下さい。

- 【文献】 1) Iwasaki, K.; Arai, H. et al. J Clin Psychiatry. 2005, 66(2), p.248. 2) Mizukami, K.; Asada, T.; Toba, K. et al. Int J Neuropsychoph. 2009, 12, p.191.
3) Takeda, A. et al. Nut Neurosci. 2008, 11(1), p.41. 4) Takeda, A. et al. Neurochem Int. 2008, 53, p.230.
5) Kawakami, Z. et al. Neuroscience. 2009, 159, p.1397. 6) Egashira, N. et al. Prog Neuro-Psychoph. 2008, 32, p.1516.
7) Sekiguchi, K. et al. Phytother Res. 2009, 23, p.1175. 8) Kanno, H. et al. J Pharm Pharmacol. 2009, 61, p.1249.

効能又は効果

虚弱な体質で神経がたかがるものの次の諸症：**神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症**

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)著しく胃腸の虚弱な患者 (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者

2.重要な基本的注意

(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等：カンゾウ含有製剤 グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤

4.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパシー：低カリウム血症の結果としてミオパシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

^{*}その他の使用上の注意、組成・性状等は製品添付文書をご覧ください。



株式会社ツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel. 0120-329-970 (2009年9月制作)

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。 HW-0542 (審)

Lilly

抗精神病薬

劇薬/処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

ジプレキサ[®]

オランザピン製剤

Zyprexa[®] (OLANZAPINE)

錠 2.5mg

錠 5mg

錠 10mg

細粒 1%

ザイデイス[®]錠 5mg

ザイデイス[®]錠 10mg

薬価基準収載



「得体の知れない声に支配されていた…」



掲載の写真はジプレキサの試験結果と関係ありません。

Zyprexa[®]、ジプレキサ[®]はEli Lilly and Companyの登録商標です。

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては、添付文書をご参照ください。

●統合失調症に関する医療関係者向けサイト www.zyprexa.jp

●統合失調症に関する一般の方向けサイト www.schizophrenia.co.jp

製造販売元(資料請求先)

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

Lilly Answers

リリー・アンサーズ

日本イーライリリー 医薬情報問合せ窓口

www.lillyanswers.jp

医療関係者向け 0120-360-605^{*1}

受付時間:月曜日～金曜日 8:45～17:30^{*2}

^{*1} 通話料は無料です。携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

^{*2} 祝祭日及び当社休日を除きます。

ZYP-A050(R1)
2009年10月作成



Pfizer



選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) 薬価基準取裁

ジェイゾロフト[®]錠 25mg
50mg

JZOLOFT[®] Tablets 25mg・50mg

塩酸セルトラリン錠 劇薬 処方せん医薬品

注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

ジェイゾロフトの関連情報サイト

jzoloft.jp

うつ病情報サイト★こころのひまわり★

<http://cocoro-h.jp>

製造販売

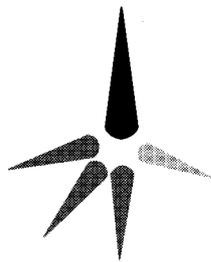
ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都豊島区代々木3-22-7

資料請求先：製品情報センター

2009年12月作成

新発売



ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤
劇薬、処方せん医薬品^注

薬価基準収載

リフレックス[®]錠15mg

REFLEX[®] TABLETS

ミルタザピン錠

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」については添付文書をご参照ください。

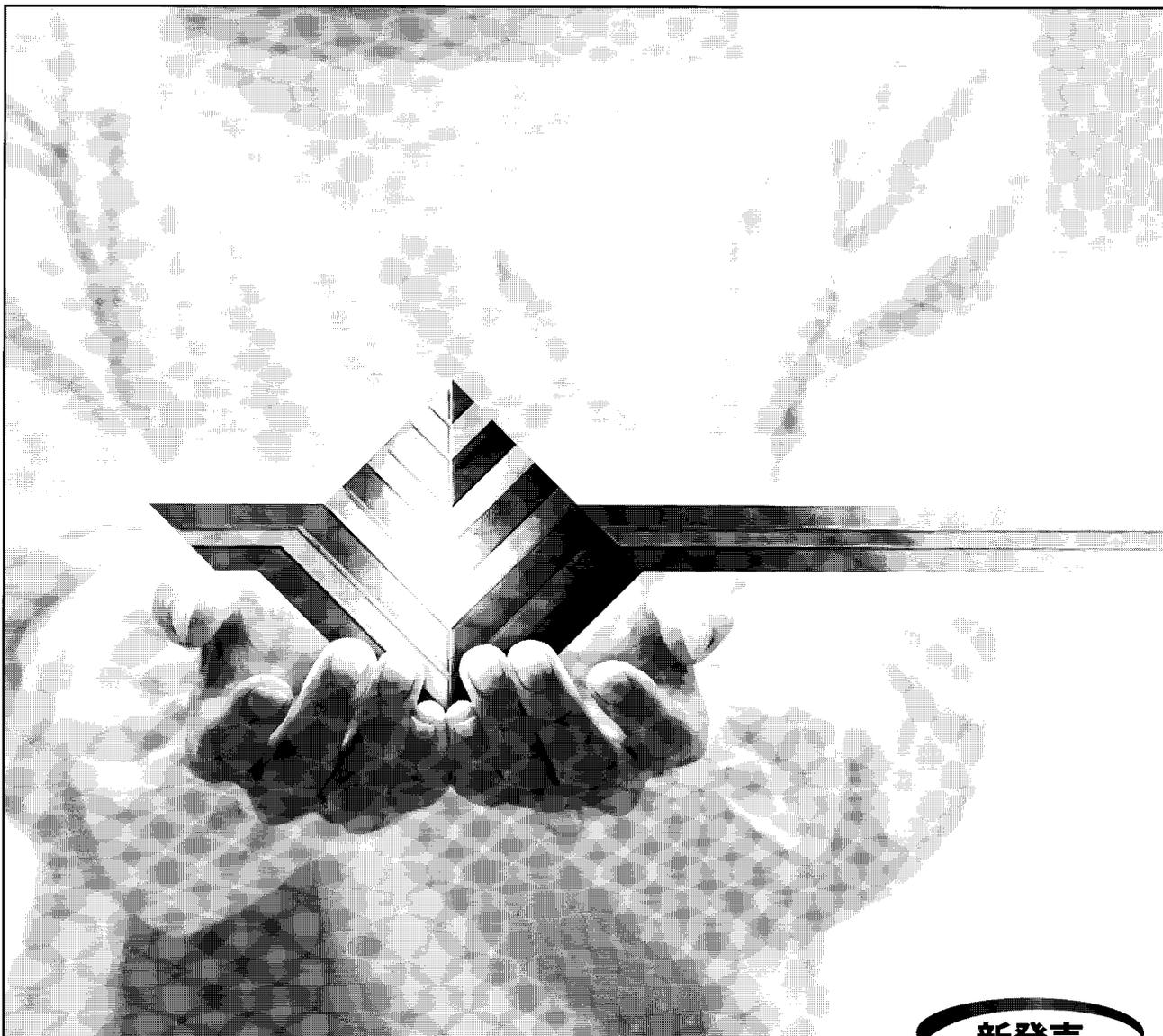
資料請求先
製造販売元



明治製薬株式会社

〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
<http://www.meiji.co.jp/medical/>

作成：2009.9



新発売

持効性抗精神病剤

劇薬 処方せん医薬品*

リスパダール コンスタ[®] 筋注用 **25mg**
37.5mg
50mg

Risperdal CONSTA[®] Intramuscular Inj.



リスペリドン持効性懸濁注射液

*注意—医師等の処方せんにより使用すること

薬価基準収載

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照下さい。

—精神障害者の
自立生活支援のために—

製造販売元(資料請求先)

 ヤンセン ファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

ヤンセンファーマ
URL <http://www.janssen.co.jp>

2009年6月作成